

# 公益信託ENEOS水素基金 第10回助成金贈呈式を開催

JX エネルギーは、2006年より「公益信託 ENEOS 水素基金」を通じて水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行っている。年間総額約 5,000 万円（1 件当たりの上限は 1,000 万円）を約 30 年にわたり安定的、継続的に助成することで、水素エネルギーによるサステナブルな社会の早期実現を目指している。今年度は、63 件の応募の中から運営委員による書類審査とプレゼン審査の結果、5 件のテーマが採択された。

11月10日に行われた助成金贈呈式では、委託者代表の杉森社長から助成対象者に対し、「独創性、新規性にあふれる研究成果を生み出し、我々が目指す水素社会を早期に実現し、環境立国日本として世界をリードしていくためにも、過去の常識にとらわれることなく常に新しい目標へ向かって挑戦を続けていてもらいたい」とのあいさつがあった。また、堂免一成運営委員長（東京大学大学院教授）より、「ENEOS 水素基金は年々応募者が増えており、受給することが一つのステータスとなっている。助成対象となった皆さんには思い切った研究を一年間やってほしい」との激励のメッセージが送られた後、目録が贈呈された。

（中央技術研究所 技術戦略室 エネルギー技術プロジェクトグループ 横山 翔）

## 2015 年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	水素発生材料や次世代エネルギー材料における触媒の水素発生挙動を直視できるナノスケール顕微システムの実現 大尾 岳史（九州大学 水素エネルギー国際研究センター 学術研究員）
水素貯蔵・輸送 媒体に関する技術	グラフェン金属クラスターの水素貯蔵 磯部 繁人（北海道大学大学院 工学研究院材料科学専攻 特任助教）
	非貴金属-電子・プロトンブリーディング有機骨格の協奏による水素発生システムの構築 張 浩徹（中央大学 理工学部応用化学科 教授）
CO <sub>2</sub> 固定化技術	二酸化炭素還元に基づく光駆動型エネルギーキャリア生成-常温・常圧水素放出デバイスの創製 天尾 豊（大阪市立大学 複合先端研究機構 教授）
	窒素ドーピンググラフェン粉末を用いた新規 CO <sub>2</sub> 分離吸着材料の開発 近藤 剛弘（筑波大学 数理物質系物質工学域 准教授）



2014 年度、2015 年度助成対象者および ENEOS 水素基金関係者